

令和7年度「狛江市学習状況調査」の結果及び 「全国学力・学習状況調査」の結果について【小学校】

令和7年9月
狛江市教育委員会教育部指導室

1 狛江市学習状況調査 (NRT)

- (1) 調査実施日 令和7年4月10日(木)
 (2) 調査の目的 ○児童の学力や学習状況を把握・分析し、その結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する。
 (3) 調査対象・実施教科等

調査対象		実施教科	調査範囲	調査実施期間
小学校	第5学年	国語・算数	前学年までに履修した内容	40分間
	第6学年	国語・算数		

(4) 結果

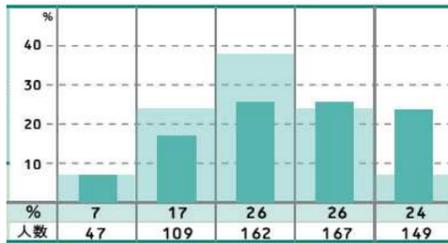
ア 第5学年

【国語】
 ●実施人数：632名
 ●偏差値平均：52.2
 ●小問通過率(正答率)
 全国平均：55.7%
 狛江市平均：59.6%



部	内容	正答率	全国正答率	全国比(95=100)	全国正答率との比較
1	話すこと・聞くこと	63.1	57.7	109	高い
2	書くこと	56.6	52.6	108	高い
3	読むこと	59.4	57.0	104	高い

【算数】
 ●実施人数：634名
 ●偏差値平均：53.6
 ●小問通過率(正答率)
 全国平均：57.8%
 狛江市平均：64.3%



部	内容	正答率	全国正答率	全国比(95=100)	全国正答率との比較
1	数と計算	70.3	62.7	112	高い
2	図形	58.4	52.3	112	高い
3	変化と関係	69.7	63.5	110	高い
4	データの活用	57.0	52.0	110	高い

【国語】平均正答率は59.6%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、漢字の読み(梅・風景)と書き(笛・歯)である。記述式の問題(話合いの司会の役割・報告文のまとめ)では、無答率が50%を超えた。
 【算数】平均正答率は64.3%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、面積の単位換算(1km²=1,000,000m²)である。図形(位置の表し方)とデータの活用(2次元表)において、無答率40%を超える問題があった。

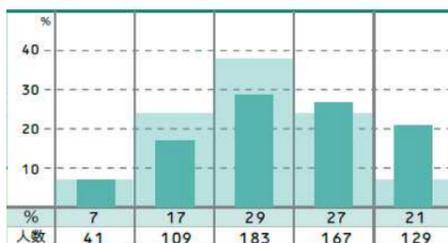
イ 第6学年

【国語】
 ●実施人数：628名
 ●偏差値平均：52.7
 ●小問通過率(正答率)
 全国平均：63.1%
 狛江市平均：67.9%



部	内容	正答率	全国正答率	全国比(95=100)	全国正答率との比較
1	話すこと・聞くこと	65.3	61.1	107	高い
2	書くこと	71.2	65.5	109	高い
3	読むこと	66.7	62.5	107	高い

【算数】
 ●実施人数：629名
 ●偏差値平均：53.4
 ●小問通過率(正答率)
 全国平均：59.2%
 狛江市平均：65.3%



部	内容	正答率	全国正答率	全国比(95=100)	全国正答率との比較
1	数と計算	67.0	63.2	106	高い
2	図形	67.6	61.2	110	高い
3	変化と関係	62.9	55.5	113	高い
4	データの活用	62.0	54.6	114	高い

【国語】平均正答率は67.9%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、漢字の書き(希望)と古典の読み(つかひけり)である。記述式の問題(意見文の要約)では、無答率が36%であった。
 【算数】平均正答率は65.3%であった。全国平均に届かなかった問題は、数と計算(偶数の理解)である。数と計算(式の意味について説明・合計を求める式の立式・倍数の考えの適用)は、無答率が30%を超えた。

2 全国学力・学習状況調査

- (1) 調査実施日 令和7年4月17日(木)
 (2) 調査の目的 ○児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への学習指導の充実や学習状況等に役立てる。
 ○取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 (3) 調査対象・実施教科等

調査対象		実施教科	調査範囲	調査実施期間
小学校	第6学年	国語・算数・理科	前学年までに含まれる指導事項	45分間

(4) 結果

ア 国語(実施人数：620名)

分類	区分	平均正答率(%)		全国比(95=100)
		狛江市	全国	
全体		69.0	66.8	103
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方	77.9	76.9	101
	(2) 情報の扱い方	65.6	63.1	104
	(3) 我が国の言語文化	84.7	81.2	104
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	67.6	66.3	102
	B 書くこと	72.3	69.5	104
	C 読むこと	61.1	57.5	106

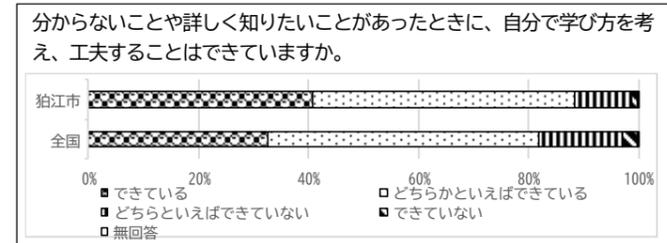
イ 算数(実施人数：620名)

分類	区分	平均正答率(%)		全国比(95=100)
		狛江市	全国	
全体		64.0	58.0	110
領域	A 数と計算	67.9	62.3	109
	B 図形	61.9	56.2	110
	C 測定	60.2	54.8	110
	D 変化と関係	66.4	57.5	115
	E データの活用	68.4	62.6	109

ウ 理科(実施人数：623名)

分類	区分	平均正答率(%)		全国比(95=100)	
		狛江市	全国		
全体		61.0	57.1	107	
領域	A 区分	エネルギー	51.4	46.7	110
		粒子	54.6	51.4	106
	B 区分	生命	54.6	52.0	105
		地球	71.1	66.7	106

エ 質問調査(実施人数：607名)



【国語】平均正答率は69.0%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、話す・聞く(話合いの様子)、書く(自分の考えの記述)、漢字の書き(暑い)であった。漢字の書き(好み・暑い)は無答率が全国より高かった。
 【算数】平均正答率は64.0%であり、全国より高い結果であった。数と計算(分数の加法の説明)、データの活用(グラフの説明)は正答率が30%程度と低かった。数と計算(分数の加法の説明)は無答率が18.5%と全国より高かった。
 【理科】平均正答率は61.0%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、生命(ヘチマの受粉について説明)であった。エネルギー・粒子(金属の性質)は無答率が12.5%と低く、生命(発芽の問題点の記述)は無答率12.7%、正答率30.3%であった。
 【質問調査】「自分で学び方を考え、工夫すること」について、88.5%が肯定的な回答であったが、「どちらかといえばできていない」が47.8%と半数を占めた。

3 さらに学力向上に向けて

狛江市学習状況調査(NRT)及び全国学力・学習状況調査において、平均正答率が全国を上回っていることから、狛江市の児童の学力は一定程度の水準にある。しかし、基礎的・基本的な学力が身に付いていない児童への個に応じた指導・支援を充実させることや、児童の学力を捉えた上でさらに学力向上を図る授業改善、記述式の問題に対する無答率の高さに課題があり、方向性として以下の取組を推進することが必要である。

- 教師の授業改善
 児童の実態を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる必要がある。一人1台端末を活用した個に応じた学習課題に取り組むことや学習記録からの即時評価等を実施するといった授業改善が求められる。
- 授業改善に向けた指導室の取組
 基礎・基本の定着を図り、問題文等を読み解く力や課題を適切に処理する力の向上のため、課題解決に向けた見通しをもてるよう、授業の導入時における学習課題の明確化や児童が主体的に取り組む展開等の授業改善の指導をしていく。